

農政だより

第142号

令和7年10月
発行 羽村市農業委員会
羽村市緑ヶ丘5-2-1
電話 042-555-1111



～トウガラシやラー油などで農商連携～

今年も、激辛フェスに向けてトウガラシが栽培されています。

酷暑の夏、雨も少ない中での栽培はとても大変ですが、中野修一さんと中根亮汰さんの育てているトウガラシは、少しずつ大きくなってきています。

羽村市の各店舗が激辛料理に使用するトウガラシは、羽村市農業後継者クラブが提供します。また、宮川修典さんが作っているキャロライナ・リーパーを使用したラー油も各店舗に配られます。激辛フェスの際は、ぜひ、お店に足を運んで激辛料理にチャレンジしてみてください。実施時期など、詳しくは、今後の広報はむらに掲載されます。

羽村市農業委員会

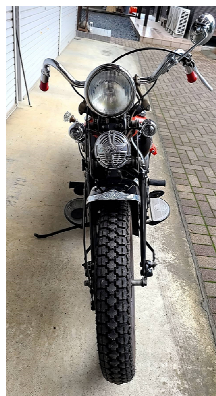
会長 石田 正弘



グレイテストハーレー

1903年アメリカはウィスコンシン州、ミルウォーキーでハーレーダビッドソンは産声をあげた。私の愛車は1957年式のハーレー、通称57パンヘッド。私より三学年上で、製造されてから68年経っている。

バイクというものは乗って走るものだから、つまり、所有するまでではなく、手に入れてから付き合っていくにはそれなりの覚悟が必要で、どうしても時間と金がかかるということだ。



ちなみにエンジンの腰下、腰上をオーバーホールすると、100万円後かかる。どこに行くにも、帰ってこないとならない。そして、自分のバイクに何が起きているのかを普段から把握していないといけない。



このところ、時代の狭間のせいか、良い古いパーツを作るメーカーが減り、低価格だけを求め、質にはこだわらない方向へと変わってしまった。昔ながらの職人気質で作られたパーツは、もはや貴重品と化している。それでもハーレーにはパーツがある。今後も、私はハーレーを手放すつもりはない。ということは、これからもバイク本体と私の試行錯誤が必要だ。このところ、仕事や年齢、体力の衰えで、エンジンはかけていない。なぜなら、キーを回してもエンジンは始動しない。私と同じアナログなキックオンリーのオートバイ、これからもよろしく。



頑張ります

農業委員会

農業者年金制度推進研究会

7月24日、農業者年金制度推進研究会が開催され、農業者年金加入推進委員の阿部委員と事務局がリモートで参加しました。年金制度のしくみや、他市町村の普及方法の事例などから、年金加入について学びました。

支払う保険料は、全額が社会保険料控除の対象となり、所得税・住民税の節税になります。加入者や受給者数に左右されにくく、保険料は、将来の自らの年金給付費になります。加入・脱退はいつでもできます。運用益も非課税です。加入要件など、詳細は、羽村市農業委員会事務局へご相談ください。



西多摩地区農業委員研修会

8月22日、西多摩地区農業委員研修会が開催されました。農業委員と事務局がリモートで参加しました。

研修会では、農業委員会活動を進めるために必要な知識として、農地や生産緑地を守り効果的に使用していく方法、担い手の支援、都市農地貸借円滑化法や、相続税納税猶予制度などを学びました。

令和7年度の東京都の農業支援策、東京の農業をめぐる課題についても考える機会になり、これからも、様々な制度や情報を広く学び地域農業者に伝えていきます。

広報研究会

農業委員の業務には、農業者に情報を知らせるための広報活動があります。

9月5日、広報研究会がJ-A東京新宿ビルで開催され、農政だより編集委員長の宮本委員と事務局が参加しました。ドキュメンタリーを制作する過程や、雑誌・書籍を出版するための企画・編集の話など、興味深い話を聞くことができました。市民と農家をつなぐ情報発信の大切さや、今後の農政だよりの取り組み方、伝え方の工夫など、広報の役割を改めて考える機会になりました。

農業委員会会長職務代理・部会長研究集会 (区内地区・北多摩地区)

9月10日、農業委員会会長職務代理・部会長研究集会(区内地区・北多摩地区)を受け入れました。羽村市産業福祉センターで、石田会長があいさつを行い、事務局が羽村市農業委員会の活動や農業施策などについて説明をしました。その後、宮川修さんと清水亮一さんの圃場を視察しました。それぞれが営農状況などを説明し、質疑も多く行われました。



↑ ナスの圃場で説明する
宮川修さん(右から3人目)

↓ 水田で説明する
清水亮一さん(左)と、石田会長





農産物直売所出張販売を実施しました

6月27日、羽村市役所正面玄関前にて羽村市農産物直売所出張販売を行いました。ナスやキュウリなど、旬の野菜が762点並び、162人が来場しました。次回は、12月に予定しております。



熱中症にご注意ください

引き続き暑い気象が続きます。農作業中は、こまめに休憩して、水分・塩分を補給すること、暑い時間の作業を極力避けるなど、熱中症の予防に努めましょう。

熱中症が疑われるときは、涼しい場所に避難、衣服をゆるめ、体を急速冷却、水分・塩分の補給を行いましょ。応急処置をしても症状が改善しない時は、医療機関で診療を受けましょ。国の省令により、

労働者を雇用する場合は、対策を周知することが新たに義務化されました。



労働安全・事故防止について

乗用型トラクターを運転する時には、必ずシートベルトを着用しましょう。また、ヘルメットの着用にも努めましょ。確実な運転を行い、道路走行時は、必ず左右のブレーキを連結ましょ。低速車マークや反射板を設置ましょ。



その他の主な活動

7月	5日・6日	あさがお・ほおずき市
25日	農業委員会総会	
30日	農業団体協議会役員会	
8月	6日	農業団体協議会役員会
22日	西多摩地区農業委員研修会	
25日	農業委員会総会	
9月	3日	農業団体協議会役員・理事会
		農業展運営委員会
5日		広報研究会
10日		農業委員会会長職務代理・部会長研究集会
18日		農業委員会会長職務代理・部会長研究集会
24日		廃棄ビニール回収
25日		農業委員会総会

・・・農業者年金に加入ましょ・・・

農業者年金は、積立方式（確定拠出型）で加入者・受給者数に左右されにくい公的年金です。20歳以上60歳未満の国民年金加入者で、年間60日以上農業に従事する方であれば誰でも加入できます。ご自身の将来設計のために積極的に活用して、豊かな生活を実現ましょ。支払う保険料は、全額社会保険料控除の対象となります。

詳しくは、農業委員会事務局までご相談ください。

全国農業新聞は、農業及び農政の現状を中心に農業者の経営とくらしに役立つ情報が掲載されています。

郵送（新聞本誌）の購読者であれば、電子版も無料で見るができます。

◇月4回 金曜日発行

◇購読料 700円（送料、税込み）※

お申し込みは、お近くの農業委員、または農業委員会事務局まで。

※令和8年4月より900円に改定。



「普及センター」から

べた掛け栽培のご紹介

べた掛け栽培とは

べた掛け栽培は、播種や苗の定植後に、不織布や寒冷紗などの資材で畝を覆う栽培方法です。冬季にべた掛けを行うと、内部の熱が逃げにくくなり、保温効果が得られるので、作物の生育が促されます。また霜や冷たい風から作物を物理的に保護することで、凍霜害の発生を軽減し、作物の品質低下を防ぐ効果が期待できます。このほか強風や、害虫や鳥による被害を防ぐ効果もあります。

べた掛け資材の種類と特徴

○長繊維不織布（ちようせんいふしょくふ）

保温、防霜、防虫などの目的で使用され、特に作物の生育促進や冬季の霜よけに適しています。耐用年数は比較的短いものの、低価格で軽量なことから使用しやすいという利点があります。

（例）パオパオ、パスライト等

○割繊維不織布（かつせんいふしょくふ）

保温、防霜、遮光などの目的で使用され、長繊維不織布よりも耐久性に優れる傾向にあります。繊維間の隙間が比較的大きいため、長繊維不織布より通気性に優れています。また構造上、遮光効果も期待できます。

（例）ベタロン、ワリフ等

○寒冷紗

保温、防霜、遮光、防風、防虫などの目的で使用されます。糸を粗く織った布状の資材で、通気性が良く、蒸れにくいのが特徴です。比較的高価格ですが、耐久性があり、長期間使用できます。



写真 べた掛け栽培の様子

被覆方法の紹介

べた掛けには、主に「直がけ」と「浮きがけ」があります。

○直がけ

方法 作物の上に直接資材をかける方法で、露地では裾をピンなどで固定します。長繊維不織布や割繊維不織布が使用されます。

利点 特に地温上昇により早春や晩秋に作物の生育を促進することができます。また資材の設置が簡単で、省力的に行えます。

留意点 作物が成長すると、資材に葉が擦れて傷がつく可能性があります。また内部はやや過湿になりやすいです。

○浮きがけ（トンネルがけ）

方法 支柱やアーチパイプなどでトンネルを作り、その上から資材をかける方法です。割繊維不織布がよく使用されます。

利点 主に防霜や遮光、遮熱を目的に行なわれ、直がけよりも保温効果が高いです。

留意点 直がけに比べて、資材の設置に手間とコストがかかります。

作物別の被覆方法

（１）ハウレンソウ、コマツナでの被覆

不織布で「直がけ」を行い、播種直後の欠株防止や、低温期の生育促進や凍霜害を予防します。不織布は株の伸長を考慮して、たるませてかけるようにします。収穫期が近づいてきたら日中は被覆を剥がし、直射日光を十分に当てましょう。

（２）ブロッコリー、キャベツ、ハクサイでの被覆

不織布、または寒冷紗のどちらも使用できます。作物が資材に触れると葉や花蕾が傷むため「浮きがけ」を行います。

（３）レタスでの被覆

厳寒期にはべた掛け栽培で凍結を防ぐことは困難ですが、早春の栽培では不織布の「直がけ」により保温効果が期待できます。

表 べた掛け栽培に使用する資材と特徴

	主な用途	耐久性	価格	重量
長繊維不織布	保温、防霜、防虫	弱	低	軽
割繊維不織布	保温、防霜、遮光	中	高	重
寒冷紗	保温、防霜、遮光、防風、防虫	強	高	重

【問い合わせ先】

東京都西多摩農業改良普及センター
電話 0428（31）2374

10月24日(金)農地現地調査を実施します

農業委員会では、10月を「農地管理推進月間」とし、農地パトロールや農地利用についての相談業務を強化しています。

農地法第30条では、農業委員会は農地の利用状況調査を行うこととなっており、農地管理推進月間中である、10月24日(金)に、農業委員と農業委員会事務局職員、都市計画課職員で、特定生産緑地を含めた全生産緑地の見回りを行います。

調査の結果、肥培管理の不適切な農地については、指導等を行っていきます。指導等に従わず農地を放置すると、相続税納税猶予制度対象農地の場合、期限が確定(納税猶予打ち切り)となる場合があります。

また、生産緑地制度は、農業の生産に供される土地に認められた制度であり、税制面で優遇されています。

このようなことから、農地の適切な管理にご協力をお願いします。

様々な事情で耕作を続けていることが難しい場合や、今後の農地利用についてお考えの方は、農業委員もしくは、農業委員会事務局にご相談ください。

はむら市民と 産業のまつり 2025

11月1日(土)・2日(日)

(午前10時から午後4時まで)の2日間「はむら市民と産業のまつり2025」がS&Dスポーツパーク富士見(富士見公園)で開催されます。

農業展では、農産物共進会や野菜を使った宝船の展示・即売、収穫体験、チャリティバザーなどを実施します。

共進会やチャリティバザーへの出品にぜひご協力ください。

【編集後記】

閑けさや 岩にしみいる 蟬の声

ここ数年、もうとつくに鳴いているはずの蟬の声が、聞こえてこなくなりました。その原因は、高温と、雨の降り方によるものが大きいそうです。蟬は、孵化から羽化まで、数年から10年程、地中に眠っています。その間の地中の温度や、土の湿り具合など、全てが整って、やっと地上へと出てこれるとのこと。

しかし、昨今では、梅雨らしい雨が続かず、局地的短時間の豪雨など、なかなか地中奥深くまで水分が届きにくい為、土が柔らかくならず、幼虫が地上に上がりにくくなっているのも影響があるそうで、やっと地上に出られても、この暑さのせいで、羽化に失敗してしまう幼虫も多くなっているとか。

そう考えると、農作物も生き物も、全て自然の恵みのおかげで、成り立ってきたのだと実感してしまいます。

この編集後記を書いている今、早朝から蟬の大合唱で、暑さも倍増しています。これも夏の風物詩ととらえ、ヒグラシの涼しげな声で、秋の知らせを待ちたいものですね。

(三記)

【編集委員】

宮川篤、井上淳孝、阿部慎也
下田壯、宮本健司

【事務局】

羽村市農業委員会事務局
(産業環境部産業振興課農政係)